



夏休みの自学習の成果は 校長 若林 富男

夏休み前の全校集会で、8月末のゴールを描き、目標を持ち、計画を立てて、長い休みに臨むようにしようという話をしました。リーダー・イン・ミーの実践の場として、「自学習をしよう」という呼びかけです。

そして、9月1日に振り返りをしてみました。「できた」「半分くらいできた」「できなかった」の三択の自己評価です。8割以上の子が「半分くらいできた」に挙手しました。

保護者の皆様は、夏休みの過ごし方を、どのように評価なさいますか。

サマースクールの学童保育は、スクールバスの到着が8時頃、帰りが5時過ぎでしたので、長丁場です。宿題や課題に取り組んだり、読書をしたり、運動をしたり、折り紙や工作をしたりして過ごしました。

学童室校庭側の窓には、海があり海草が揺れ、魚たちが泳いでいます。夏休み中にみんなで作りました。晴れた日にはステンドグラスのように見えます。(写真参照)



夏休み中の作品紹介

読書活動は、単に本を読んで記録するだけでなく、読んだ本を紹介し合う交流活動をする、より深まります。今日、盛んになってきた「ビブリオバトル」は、その一例です。読書をしながら、友達に自信を持って紹介できる本を増やしたいものです。

一方、読み語り・読み聞かせ、紙芝居、ペープサートなども読書活動の一つです。子どもたちは、聞き手になるだけでなく、話し手(演じ手)になってほしいと願っています。

★夏休み中に1年生の女兒2人が絵と文を分担して紙芝居「おじいさんになっちゃった」(16枚組)を作り、みんなの前で、すでに2回ほど上演しました。



★夏休みには、身近なものを使って、たくさんの工作をしていました。想像力豊かな児童たちは、ゼロから物を作り出すのがとっても上手です。中でも一番目を引いたのは…、筑波山ロープウェーです！白い紙、糸、段ボールを使って、駅を作り、糸をロープに見立てて、薄い紙を立体的に組み立てた車体を作り、駅に見立てた箱と箱の間を行ったり来たり、すーい、すい♪♪その発想の豊かさに、とっても驚きました！（梶原）

